



新しい時代を切り拓く

～地域とともに～



紀の川市立長田小学校 6年生と共に

紀の川市教育委員会
教育長 貴志 康弘

新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るうようになり、2年余りが経ちました。この間に社会の様相は大きく変化することとなりました。教育の現場においても、中央教育審議会から2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿が示されました。新学習指導要領の着実な実施とICTの活用をめざして、昨年4月から1人1台端末が導入され、授業風景も大きく変わってきています。また、小学校では、35人学級への移行が進み、本年度からは、高学年で教科担任制が導入されました。

紀の川市では、これまで老朽化した校舎の改築や空調設備の整備・トイレの洋式化に取り組んできました。また、住民の定住促進を目的とし、本年度から「紀の川市

の小中学校の給食費無償化」となりました。今後も紀の川市として、よりよい教育環境の充実を目指して、特色ある教育施策を進めていきます。

急速な社会の変化に対応し、「持続可能な教育現場」を創り上げていくため、ハード面の整備だけでなく、ソフト面での充実を図っていく必要があります。そこで、紀の川市の小中学校において、次の時代を支えていく「人づくり」を核に次の三点の取り組みを進めていきます。

一つ目は、「紀の川市を愛する市民づくり」のため、小中学校におけるふるさと教育を充実させます。紀の川市をテーマに、「知る」、「考える」、「対話する」そして、「提案する」学習を通して、紀の川市に強い想いを抱く子供が育つことを期待します。

二つ目は、「次世代の紀の川市の教育を支える教員づくり」のため、学校において意図的・計画的に人材育成を図ります。現在、ベテラン教員の退職にともない教員の世代交代の時期を迎えています。若手教員の人材育成を図るとともに、スクールカウンセラーなど専門的な職員と、めざす子供のゴールイメージを共有し、「チーム学校」として、組織的に機能することを期待します。

三つ目は、「学校を取り巻く地域人材づくり」のため、学校運営協議会を核として、地域とともにある学校をフィールドとした協働活動の中で、地域の絆が生まれ、学校を含む地域が活性化することを期待します。

このように、小中学校で「人を育てる」取り組みを通して、周囲の大人たちが、一人一人の子供を主語にして語り合い、協働し合うよう学校教育の姿こそが、紀の川市教育大綱が目指している「生涯共育」の実現につながるものと信じております。

令和4年4月





「地域とともにある学校づくり」

- ふるさと教育の充実
- きのくに「コミュニティスクール」の取組推進
- PTA活動の活性化

特色ある紀の川市の教育

- 学びのスタンダード（小・中学校版）
- 「4+1改善」構想
- 小中接続の重視
- 多種多様な教職員による「チーム力」

『4+1改善』構想

- ◆ ICT機器利用の改善
- ◆ 総合的な学習の時間の改善
- ◆ 自立活動の改善
- ◆ 人材育成の改善
- ◆ 学校運営協議会の改善

◆は、「4+1改善」構想に関する内容

個に応じた教育のために

- ◆ 自立活動の充実
- ◇ 特別支援教育の充実
- ◇ つなぎ愛シートの活用充実
- ◇ キャリア教育の充実



つなぎ愛シート

安全で楽しい学校をつくるために

- ◇ いじめや暴力のない学校づくり
- ◇ 防災教育と安全教育の充実
- ◇ 情報モラル教育の充実
- ◇ 学校防災力の向上

豊かな心とたくましい体をはぐくむために

- ◇ 道徳教育の充実
- ◇ 対話を通して互いを認め合う活動の充実
- ◇ 読書活動の推進
- ◇ 生涯スポーツにつながる活動の推進
- ◇ 基本的な生活習慣の確立
- ◇ 健康教育と食育の充実

- ・ 新学習指導要領の着実な実施（主体的・対話的で深い学び、3つの資質・能力の育成）
- ・ 一人一人に個別最適な学びの実現
- ・ 一人一人の児童生徒が主語となる学校教育の実現

信頼される学校をつくるために

- ◇ コミュニティ・スクールの充実
- ◇ 紀の川市学びのスタンダードの充実
- ◇ 小中接続を意識した学校経営

確かな学力をつけるために

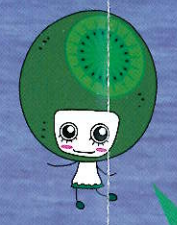
- ◆ ICT機器の有効利用
- ◆ 総合的な学習の時間の見直し
- ◇ 和歌山の授業づくり基礎・基本3か条の充実
- ◇ コミュニケーション能力の育成
- ◇ 学校図書館利活用の充実
- ◇ 外国語教育と国際理解教育の充実



学びのスタンダード

次世代の人材を育てるために

- ◆ 教員の人材育成の推進
- ◇ 働き方改革の推進
- ◇ 郷土愛を持つ子供の育成
- ◇ 地域人材の育成の場



「一人一人の子供が主語となる学校教育の実現」

児童生徒数は、令和4年4月1日現在

	学校名	校長	学級数 児童・生徒数	学校教育目標
				今年度の研究主題
小 学 校	池田小学校	上野 大雄	18学級 383名	自ら学び、思いやりの心を持って、たくましく生きる児童の育成 学習に楽しみやおもしろさを見出し、主体的に学びを追求できる子供の育成 ～どの子も分かる・考える授業づくりの実践（支援教育の視点を持って）～
	田中小学校	宮本 美保	21学級 497名	豊かな心と確かな学力を培い、健やかな体をはぐくむ 「わかった」「できた」に喜びを感じ、自ら学ぶ児童の育成
	長田小学校	深田 昌良	8学級 87名	知・徳・体の調和のとれた児童の育成とともに、自ら学ぶ意欲を育てる どの子も活躍できる、個別最適な学びの創造～情報機器を活用した、主体的な学びを通して～
	粉河小学校	岡田 明彦	11学級 238名	知・徳・体の調和がとれ 心豊かな子供の育成 根拠を持って自分の考えを説明できる児童の育成
	竜門小学校	成瀬 憲弘	8学級 87名	美しい自然と豊かな文化に恵まれた竜門の大地を愛し、自ら学び自ら考え、行動する子供を育てる 主体的に学び、伝え合う子どもをめざして～特別活動の実践を中心に～
	川原小学校	仲谷 俊哉	6学級 46名	豊かな心と確かな学力を身につけた、たくましい児童を育成する 複式・少人数学級における協働的な学びの育成～深い学びをつくる対話・練り合いを通して～
	名手小学校	岸部 直樹	9学級 194名	豊かな心を持ち、自ら学び、自らを高めながらたくましく生きる児童の育成 児童一人一人が生き生きと輝く学校づくり～組織的な学校運営を通して～
	上名手小学校	宮本 義友	6学級 37名	豊かな心と確かな学力を育み、仲間とともにたくましく生きる子供を育成する 豊かにかかわり、自ら深く考える児童を育てる ～人、地域、自然との関わりを大切にふるさと学習を通して～
	麻生津小学校	北山 力也	3学級 23名	学び合い、心豊かに、たくましく生きる子の育成 ICT活用により、児童が自主的・主体的に取り組み、学びを深め進める複式教育の研究
	安楽川小学校	原 寿宏	16学級 273名	人権尊重の精神を基盤に、知・徳・体の調和のとれた子供を育成する 筋道立てて考え、考えたことを表現できる子供を育成する～思考ツールを活用した授業づくりを通して～
	調月小学校	杉本 和彦	8学級 68名	豊かな心を持ち、確かでしっかりした学力と体力を身につけ、心身ともに健康で個性豊かな児童を育成する 主体的な学びに必要な「話す力・聴く力」の育成
	丸栖小学校	上野 美幸	8学級 148名	知・徳・体の調和のとれた感性豊かな子供の育成 児童一人一人の確かな学力の向上をめざして～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり～
	西貴志小学校	石丸 岳志	16学級 331名	「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」を育む 言語活動を用いた表現力の育成～ICTを活用した説明文の指導研究～
	中貴志小学校	谷口 博司	16学級 297名	みんながわくわく学び合う学校 一人一人が考えをもち、互いにかかわりのある授業づくり
	東貴志小学校	三浦 正嗣	8学級 96名	何事にも積極的に取り組み、心身ともにたくましい、思いやりの心をもつ児童を育てる 基礎学力の定着と、児童が学ぶ楽しさを実感できる授業を自指して！
中 学 校	打田中学校	松下 裕充	16学級 390名	豊かな人間性・主体的に学ぶ力・未来を切り拓く力の育成 ESDの視点に立ち、自ら考え深め合える教育の実践
	仙溪分校	松下 裕充	2学級 3名	つかむ・考える・乗り越える 自立支援の視点に立った授業のあり方～自己肯定感を高めることをめざして～
	粉河中学校	長田 雅弘	10学級 218名	生徒も先生も楽しい学校 学び上手、支え上手な粉中スタイルの授業を目指して
	鞆渚中学校	淡路 宏昭	1学級 3名	ふるさとを愛し、自ら学ぶ、心豊かでたくましい子供の育成 ICT機器を活用したコミュニケーション力の向上
	那賀中学校	中 智伸	7学級 122名	自ら学び、たくましく、心豊かな生徒の育成 生徒が活躍する授業づくり
	荒川中学校	椿本 雅敏	8学級 154名	「楽しい」「わかる」「できる」が実感できる授業の推進 生徒も先生も、誰もが楽しめる学校づくり
貴志川中学校	山田 浩史	20学級 471名	2030年代に対応できる資質・能力を備えた生徒の育成～全ての生徒の可能性を生かすために～ 生徒が基礎学力を身につけ、主体的に学習に取り組む指導方法の工夫改善	